

園で  
ご回覧  
ください

# パルフェ

Vol. 11

特集 いつもの保育を見つめ直してみよう!

## 5 子どもの「話す機能」の発達を支えるには?



イラスト 渡辺美智雄/もじ★かずくらぶプリントより

寄り道しながら楽しみました!  
裏表紙でくわしく紹介します。

●おいもほりをするよ。➡から★まで ゆびで たどりましょう。

表紙のウラ話



### 「もじ★かずくらぶ」 3歳児クラスの活動より

お芋のつるを引っ張って芋ほりをする、指でなぞる「迷路」のプリントです。

まず『やきいもグーチーパー』の手遊びをしました。子どもたちは大きな声で歌いながら「グー・チヨキ・パー」の手を作り、「勝った!」「負けた!」と講師とのじゃんけんを楽しみました。その後、この絵を見せ、みんなでお芋ほりをしたときの楽しかった思い出を振り返りながら迷路をたどりました。

幼虫やモグラのお部屋に寄り道して「モグラさんおやすみなさい。」とお話ししても大丈夫。正しい道順でたどることよりも、会話を通してこの絵の世界をたっぷり楽しむことを大切に活動しました。

道からはみ出さないように指で集中してなぞるには、手指を制御する力が必要です。「グー・チヨキ・パー」と手を大きく開いたり閉じたりしながら形を作ることでも、手指の発達が促されます。これを「顔じゃけん」に変えて楽しむと、表情筋の発達が促され「話す機能」の発達につながります。

### 幼児教室 もじ★かずくらぶ を運営する 新学社はこんな会社です

全国の小学校・中学校で使用されているドリル、ワーク、資料集などの図書教材の出版社です。また、幼児~中学生向けの家庭学習教材『月刊ポピー』を全国のご家庭にお届けしており、『幼児ポピー』も40年以上の歴史があります。「もじ★かずくらぶ」の教材には、そうした教材作りのノウハウも活かされています。



### 集団で 楽しく学べる! もじ★かずくらぶ

幼児教室「もじ★かずくらぶ」では、3歳~5歳クラスを対象に、カラフルなプリントを素材にして「ことば遊び・もじ遊び・かず遊び・ちえ遊び」を楽しみます。クラスのお友だちとの遊びを通して、学ぶ楽しさを感じながら就学に向けた準備を少しずつ進めていきます。

### もじ★かずくらぶ

ホームページ

「もじ★かずひろばパルフェ」では、「教育情報」や「指導の工夫」などをご紹介しています。



<https://www.sing.co.jp/mojikazuclub/>

いつもの保育を見つめ直してみよう!

# 5 子どもの「話す機能」の発達を支えるには?



「噛む力（咀嚼<sup>そしゃく</sup>）」や「飲み込む力（嚥下<sup>えんげ</sup>）」の発達と「話す機能（話し言葉の音声を作り出す機能）」の発達は、密接につながっています。

例えば…

- 唇で食べ物を取り込んで飲み込んだり口唇を閉じて咀嚼したりする動作は「パ」
- 舌の前方を使って食べ物を押しつぶす動作は「タ」
- 飲み込む際に必要な舌の奥の部分の機能は「カ」の発音に関わります。（\*1）

いずれの動作もその部分を動かすことで発達が促されるので、普段の保育の遊びの中に意識的に組み入れていきましょう。

また、日々の食事の場面でも「しっかりと噛めているか？飲み込めているか？」乳児・幼児の「口の動き」を注意深く観察していくことが大切です。

（\*1）「幼児の構音機能と食べる機能との関連」坂本・森脇・山川・長光・古賀・阿部 中村学園大学・中村学園大学短期大学部 研究紀要 第52号 2020

## 遊び例（幼児）

### ★ 口や口周辺を意識した遊び

- ・手遊び歌、わらべ歌で口を大きく動かす
  - ・にらめっこ（あっぷっぷー）
  - ・リップロール（唇をブルブル震わせる）
  - ・シャボン玉や笛をゆっくりやさしく吹くなど、色々な強さや速さの息を吹いて唇の動きを調整
  - ・顔じゃんけん
- （ブーチヨキパーを顔で表現）



- ・あっかんべー
- ・舌を左右に動かして内側から頬をふくらませる

### ★ 舌の動きを意識した遊び

こんなときは…

笛やラッパなどを上手に吹けないときは、ティッシュをフ〜と吹くことから始めてみましょう。

トイレットペーパーの芯を口やストローで吹いて転がして遊んだり、吹き戻しを吹いたり…と少しずつレベルを上げて、子どもが達成感を感じながら楽しめるような工夫を心がけましょう。



## 食事面（乳児）

### ★ 食事面での観察ポイント

#### 1 唇を閉じるタイミングは適切か

食事介助のとき、スプーンなどの食具は唇が閉じるのを待って引き抜くようにしましょう。

唇を閉じる感覚がもてないと、噛むための感覚情報が足りず、丸飲みの原因につながります。

前歯を使ってかじり取らせる練習も大切です。

#### 2 頬が動いているか

奥歯が発達してきて、頬が動いている場合は奥歯や奥歯のあたりの歯ぐきまで食べ物をすりつぶしているという証拠です。食べ物を口に入れても、舌と上あごで食べ物を吸って「つぶし食べ」しているうちは頬はあまり動きません。舌の上に乗って大きさがあまり変わっていない場合は、その子に適した食材の大きさや、調理方法を工夫していきましょう。



#### 3 口へ取り込む分量は適切か

口いっぱい押し込み過ぎると咀嚼能力が追いつかず上手に飲み込めない原因にもなります。前歯でのかじりとりが苦手な場合もあります。

無理なく処理できる分量を与えながら、「お口の中のものがないまで待ちますよ」「ゆっくり食べようね」といった声かけをしたり、いったん柔らかい食物に戻したりしてみましょう。

写真提供/多摩市あおぞら保育園



## 解説

「よく噛む」ことは、あごの発達を促し、消化を助け効果的に栄養を摂るために欠かせません。

一方で、「噛む」ことで脳の血流が増え、「脳の記憶庫」と呼ばれる海馬や「判断・感情・行動・コミュニケーション」をつかさどる前頭前野などが活性化していきます。

咀嚼力は個人差が大きいため、苦手な子どもが、かための食材（リンゴなど）を、いつもより少しでも良く噛んでいるときがあれば、その瞬間を見逃さず、「よくカミカミできたね!」とすかさず認めるようにしましょう。

「おいしいね。噛むとお口からどんな音が聞こえる?」「どんな味がする?甘い味がするね。」と噛むことで楽しく味わえるような声かけも欠かせません。うまく噛めない様子があるときは、心理的な原因があることも。子どもの体調や機嫌を観察しつつ、無理のない量で、食事を通して、快の刺激を十分味わえる関わりを目指しましょう。

解説

鎌倉女子大学児童学部児童学科 榊原久子先生